

NRI 学生小論文コンテスト2015

2030年に向けて—

「**守るもの**」、

「**壊すもの**」、

「**創るもの**」

「NRI学生小論文コンテスト」とは？

野村総合研究所（NRI）は、「未来創発—Dream up the future.」という企業理念のもと、未来社会のパラダイムを洞察し、その実現を担うことを使命としています。

そうしたNRIの社会的責任の一環として、次代を担う若い世代の皆さんに、日本や世界の未来に目を向け、自分たちが何をなすべきかを考え、その熱い思いを発表する機会を持っていただこうと、2006年に開始したのが「NRI学生小論文コンテスト」です。

10回めの開催となる2015年は、NRIの創立50周年の年にあたり、記念事業のひとつとして位置付けました。

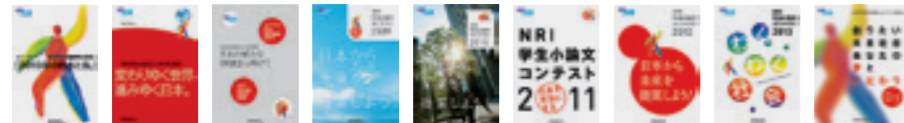
毎年、学生の皆さんから、日本と世界の新たな関係づくりや、未来に向けた斬新で力強い提案をいただいています。

NRIは、コンテストで受賞したそれらの提案を広く社会に公表することによって、若者を含む幅広い世代が日本の未来を考えるきっかけにしたい、と考えています。

これまでの募集テーマ

大学生の部・留学生の部 | 高校生の部

- 第1回（2006）ユビキタスネット時代のITと人間の関わり | モチベーションクライシス
- 第2回（2007）日本が世界と共生するには | 日本から見た世界 世界から見た日本
- 第3回（2008）日本の「第三の開国」に向けて | 2015年の日本人像・家族像
- 第4回（2009）ITを活用した日本発ビジネス | 日本はコレで世界一になる！
- 第5回（2010）日本が世界のためにできること | 世界のなかで日本の魅力を高めるには
- 第6回（2011）2025年、新しい“日本型”社会の提案 | 2025年の日本を担うわたしの夢
- 第7回（2012）自分たちの子ども世代に創り伝えたい社会
あるべき社会の姿と私たちの挑戦 | 私たちがすべきこと、できること、やりたいこと
- 第8回（2013）あなたが考える“わくわく社会”を描いてください
- 第9回（2014）創りたい未来社会 —あなたの夢とこだわり



これまでの記録集

コンテストへの思い

日本や世界の夢ある未来を提案してください！

NRIグループは企業理念に「未来創発—Dream up the future.」を掲げており、夢（Dream）と未来（Future）という2つの想いを大切にしています。「NRI学生小論文コンテスト」でも、大学生、留学生、高校生の皆さんから、日本や世界に向けた、夢のある未来の提案をお待ちしています。

NRI代表取締役会長 兼 社長
嶋本 正



どんな人が書いたのかと、思いをめぐらせ審査

毎年「NRI学生小論文コンテスト」の審査に参加し、若い世代の方々の新鮮な発想に触れています。審査では応募した人の属性が一切明かされないのので、論文を読めば読むほど「これを書いたのはどんな人だろう？」「実際に顔を見てみたいな」という思いが強くなります。実際に表彰式で受賞者の方たちとお会いできる本コンテストの審査は、私にとって毎年の楽しみであり、自身の勉強にもなっています。

「NRI学生小論文コンテスト」
特別審査委員

池上 彰 さん

いけがみ あきら—ジャーナリスト、東京工業大学教授。1973年NHKに記者として入局し、1994年から「週刊子どもニュース」の“お父さん”を11年間務め、2005年独立。著書に『伝える力』『池上彰の現代史授業—21世紀を生きる若い人たちにシリーズ』『知らない恥をかく世界の大問題』『池上彰教授の東工大講義』『大世界史』など。

日本や世界の課題にとって、大切な「情緒」や「感性」

IT化が進んだことで、人間の思考方法がある一定のフレームに自分の意見をおさめ、要約するようになってきたという説があります。そこで一番にそぎ落とされるのは、行間を読む、沈黙する、相手の言葉を正しく聴くといった「情緒」や「感性」です。しかし、日本や世界が抱える課題にとって、人と人との関係性における「情緒」や「感性」ががとても大切であることを、論文を書く際にはぜひ強く意識してほしいと思います。

「NRI学生小論文コンテスト」
特別審査委員

ノンフィクションライター
最相 葉月 さん

さいしょう はづき—ノンフィクションライター。科学技術と人間の関係性、災害、医療などを中心に取材執筆活動を行う。著書に『絶対音感』『星新一—〇〇—話をつかった人』『青いバラ』『ビヨンド・エジソン』『セラピスト』『れるられる』『最相葉月 仕事の手帳』『調べてみよう、書いてみよう』『東工大講義 生涯を賭けるテーマをいかに選ぶか』など。





目次

- 2 「NRI学生小論文コンテスト」とは？
- 3 コンテストへの想い
- 6 NRI学生小論文コンテスト2015 2030年に向けて—「守るもの」、「壊すもの」、「創るもの」
- 7 募集要項
- 8 入賞作品

- 11 **受賞論文 大学生の部**
- 12 大賞 人に寄り添う医療を目指して—2030年へ向けた医療改革の提言 岡口 和也・岡口 正也
- 15 優秀賞 地域力結集で実現する『中継ぎ保育』の拡充 岩間 優
- 19 優秀賞 日本のベンチャー市場の活性化にむけて 武者修行退職制度の導入 宮生 侑祐
- 23 特別審査委員賞 公共オンブズマンの設置—市民の政治参加の架け橋 松本 淳志

- 27 **受賞論文 留学生の部**
- 28 大賞 問題解決学科—「守破離」の精神から 李 超君
- 31 特別審査委員賞 中国留学生から見た青森県の地域活性化について 金 春海
- 36 特別審査委員賞 デジタル遊牧民は電気羊の夢を見るか—選択代行時代への移行 朴 知遠
- 40 コラム NRI学生小論文コンテスト 受賞OB・OGのいま— Part1

- 41 **受賞論文 高校生の部**
- 42 大賞 「地方院」構想—民主主義と地方を守り、無意味な議会を壊し、私たちの議会を創る 橋本 康平
- 44 優秀賞 日本で本当にグローバルな人材を育てるには 江橋 朱里
- 46 優秀賞 2030年バイキング式社会の実現へ向けて 金 道慶
- 48 優秀賞 世界に目を向けさせるために、「世界問題」の授業を行おう 近藤 柚香
- 50 コラム NRI学生小論文コンテスト 受賞OB・OGのいま— Part2

- 51 **募集告知から審査、そして表彰まで**
- 52 募集告知
- 54 審査
- 56 最終審査会
- 58 ドキュメント最終審査会
- 64 表彰式
- 66 論文発表
- 68 コンテストへの応募動機
- 70 NRIグループ社員による審査の感想
- 72 NRIグループ社員によるコンテスト告知活動
- 73 先生から見た「NRI学生小論文コンテスト」
- 74 おわりに
- 75 メディアでの掲載

NRI 学生小論文コンテスト2015

世界に向けて未来を提案しよう!

大学生の部、留学生の部、高校生の部 募集テーマ

2030年に向けて—— 「守るもの」、「壊すもの」、「創るもの」

[テーマ詳細]

今から15年後の2030年代、日本は、世界はどんな姿になっているでしょうか？
皆さんが今よりもっとわくわくした毎日を送り、社会も豊かになっている姿(様子)を描いてみてください。

「守破離(しゅはり)」という言葉があります。
剣道や茶道など「道」の世界で、修行の段階を表す言葉です。
「守」で基本となる教え(型)を学んで身につけ、次に「破」で、「守」の段階で作上げた既存の殻を破って自分の型を見出し、そして最後の「離」で「守」「破」で体得した型から離れ、独自の道を自在に作って、道を究めていくという考え(思想)です。

「守破離」のような視線で未来像を描けないでしょうか。
今あることの中で、まず残したい、尊重したい伝統や文化は「守る(守)」、次に旧態依然とした規制や人々の自由を奪う慣習などを「壊す(破)」、そして技術革新やグローバル規模での相互交流を通じて、全く新たな仕組みや価値を「創る(離)」。
このような3つの活動や挑戦が過去から積み重ねられ、世界中で様々な発展が生まれて、今日に繋がっているとNRIは考えます。

未来は誰にも分かりません。2030年代にかけて起こりそうなことをイメージした上で、皆さんが望ましいと思う未来社会の姿を描いてください。
そのような新しい社会の実現を目指すために、何を「守り」、「壊し」、「創っていく」のか、その中であなたがどのように関わりたい(貢献したい)のかをまとめてください。

2030年代は、皆さんが社会の中核となって活躍する時代であり、皆さんの世代が「自分たちの未来を自ら切り拓いていく」という主体的な意思・責任感を持って、具体的な行動を起こすことが不可欠です。

皆さんの知識や実体験に基づいた独自の観点から、革新的な未来社会の姿を提案してくださることを期待しています。

募集要項

目指したい革新的な未来社会の姿を提案してください!

大学生の部

応募資格 — 日本国内の大学院、大学、短大、高等専門学校(4~5年)に在籍している学生で、2015年7月1日時点で27歳以下の個人またはペア。
ペアの相手は、留学生の部、高校生の部の応募資格者でも可。
字数 — 4,500~5,000字 *別途400字程度の要約を添付
賞 — [大賞1名] 賞金50万円、[優秀賞若干名] 賞金25万円、[奨励賞若干名] 賞金5万円

留学生の部

応募資格 — 日本国内の大学院、大学、短大、高等専門学校(4~5年)、日本語学校に在籍している留学生で、2015年7月1日時点で30歳以下の個人またはペア。
ペアの相手は留学生の部の応募資格者に限る。
字数 — 4,500~5,000字 *別途400字程度の要約を添付
賞 — [大賞1名] 賞金50万円、[優秀賞若干名] 賞金25万円、[奨励賞若干名] 賞金5万円

高校生の部

応募資格 — 日本国内の高校、高等専門学校(1~3年)に在籍している、2015年7月1日時点で20歳以下の個人またはペア。
ペアの相手は高校生の部の応募資格者に限る。
字数 — 2,500~3,000字 *別途200字程度の要約を添付
賞 — [大賞1名] 賞金30万円、[優秀賞若干名] 賞金15万円、[奨励賞若干名] 賞金3万円

[応募の際の注意点]

- ・論文は日本語で執筆された、自作で未発表のものに限る。
- ・テーマをそのまま論文タイトルとはせず、独自のタイトルを必ずつける。
- ・3名以上のグループでの応募は、審査対象外とする。
- ・図表の数は5点以内とする。
- ・論文の中で他の著作物を引用する場合は、その箇所を明記するとともに、論文の最後に出所を記載する。出所は字数に含まない。
- ・図表タイトル、図表中の文字、注釈、参考文献一覧は、字数に含まない。

